和歌山大学クリエ映像制作プロジェクト

ミッション：短編映像の制作

1. 目的

このミッションは、クリエ映像制作プロジェクトに新しく加入した一年生のメンバーに、短編映像の制作を通して、機材（カメラ、編集ソフトなど）の使い方に慣れてもらうことが目的である。上級生は１年生を指導する上で自身の技術の向上や再確認を行う。しかし、ただ単に短編映像を制作するのみだと目標がなく、１年生の制作意欲が沸かない。そこで、制作した短編映像を**「わがまち CM コンテスト」**へと出展し、入賞を目指すことを主な目的とする。**1 年生の映像制作の技術にばらつきがあっても、上回生の指導の下に制作を行えるので、躓くことなく技術を向上させ、「わがまち CM コンテスト」への出展という明確な目標とともに映像制作が行えるためである。**

題材として短編映像の制作を選択した理由として二つある。まず、一つ目の理由として制作するための時間がドラマやドキュメントと違い短く済むことである。制作するための時間が短く済むとその分、指導する時間や、出展するための映像を再撮影、修正するための時間に割くことができるためである。そして比較的短期間で、後期から開始する映画製作に必要な技術を指導することができる。これは下級生の指導を行う上で大きな利点と考えられる。

二つ目として、「30 秒」という映像の長さである。**映像を作るうえで難しいことの一つとして、「決められた時間で自分の伝えたいことをどのように伝えるか」ということが挙げられる。今回出展するコンテストにおいて決められた時間は、わずか「30 秒」。たった 30 秒の映像の中に、どのようにして、どれだけの情報量と伝えたいことを収めるのか。この映像構成について考えることは日常では経験できることではなく、1 年生にとっても、指導する上回生にとっても貴重な経験となると考えたためである。**

2. 目標

・映像制作についての基礎的な技術を習得する。
・後期映像制作に向けて活躍できる人材を育成する。
・映像を作る難しさと楽しさを１年生に知ってもらう。
・昨年度は一次予選通過という結果だったので、今年度はコンテストで入賞を目指す。

3. 活動内容

・制作班分け

当初は**1 年生 4 人程と指導役としての上回生を各班に配置し、その班ごとに制作を行う**予定であったが、今年度は１年生の人数が少なかったため、上級生全員で１年生

の指導を行った。

・機材講習

クリエ映像制作プロジェクト全体のミッションと連携し機材講習を行った。カメラでの使用方法、撮影機材の使い方、編集ソフトの利用方法を指導した。1年生の数が少ないことが結果的に、綿密な指導と個人の理解につながった。

・企画

「和歌山市ではたらく魅力」についてというテーマで短編映像を作ることが企画の中で決まった。出展するコンテストである「わがまち CM コンテスト」のテーマは「まち」である。他県に住んでおり、「和歌山大学」に来るだけで、「和歌山」自体を知らない人も多いのではないか。そういった「和歌山」の良さを知らない人たちに、和歌山の魅力を伝える映像を作るといった過程で、映像を作る側も見る側も、「和歌山」の良さを再発見でき、地域の活性化や自分自身への学びへとつなげることが出来ると考えたためである。

ここまで順調であったが、和歌山市で働く様々な業種の方にアポイントメントを取る作業が難航し、さらに1年生1名が途中で辞めてしまい、以降のスケジュールに影響が出てしまった。

・撮影と編集

前述の問題のため時間が少なく、1年生には撮影と編集の時間を十分には用意できなかった。が、撮影と編集においては問題が起きず、非常にスムーズに進行した。1年生の技術がしっかりついていたためと考えられる。今後はさらに余裕を持ったスケジュールを立てる必要性を感じた。

写真：完成した映像より

写真：完成した映像より

4. 結果と成果

「わがまち CM コンテスト」に出展した結果、一次予選を通過することはできたが、入賞には至らなかった。しかし、今回の短編映像の制作を通して、後期映画製作にも関わってもらうことができ、それを指導する上級生も編集技術の再確認や理解の向上が行えた。また、全国わがまち CM コンテストに出展するうえで、地域の様々な魅力の再発見や和歌山に住む人との交流も行うことができた。

5. 今後の課題

「わがまち CM コンテスト」等のコンテストに出展し入賞を目指すという目標を立て、多少の問題はあったものの、なんとか一年の活動を終えることができた。この目標には問題ないと考える。しかし、ただ一つの目標を立て、それを達成するように頑張るというのは、学部が違う人達が集う中で長期間のスケジュールを立てる必要性があるなど少々難しい一面も見られた。

そこで、主目標とそれに続く小目標を設定し、その小目標を達成しつつ主目標の最終的な達成を目指すという方法を取るほうがより効率的ではないかと感じた。来年度、新二年生にはより効率的な方法を取ってもらうために、自分も一緒に考えて、今年の失敗点を反映させたい。

6. 感想

今回、自身の家庭の事情や病気等でメンバーには多大な迷惑をかけてしまった。ポスターセッションを病欠してしまったことだけではなく、前述した通り 1 年生には時間を満足に取れなかったことが心残りである。そんな中も手助けをしてくれたメンバーには感謝が尽きない。今後、ミッションリーダーを担当する人は心身共に余裕のある人に担当していただきたい。